

授業科目 吃音

【担当教員名】 長澤泰子	対象学年	3	対象学科	言語
	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	1	時間数	15

<概要>

吃音研究の歴史を学び、主たる吃音理論やセラピー理論の根拠について考える。現在の状況を概観し、「理論と実践」の整合性または矛盾点を知り、臨床の場でなにが必要とされるかを考えるための基礎的知識を重視する。セルフヘルプグループの活動や、親の思いなどについても、考察する。

<学習目標>

1. 吃音を持つ人の思いを理解する
2. 「話す」ことの意味を理解する
3. 「どもること」による不利益がどんなことかを理解する。
4. 吃音に関して、科学的見地から明らかになった事実を理解する。
5. 吃音を持つ成人、児童・生徒のニーズを理解し、言語聴覚士ができること、そしてなすべきこと考察する。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	オリエンテーションおよび話すことについて考える		
2	〃		
3	オートン・トラビスの大脳半球優位説とジョンソンの診断原因説		
4	〃		
5	バン ライバーの吃音重症度の方程式と最近の考え方		
6	〃		
7	症状のとらえ方、吃音を持つ人の考えかたと子供たちの思い。 言語障害の専門家がなすべきこと。		

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書	なし プリントを配布する			
参考書	「ことばの治療」	バン ライバー著	田口恒夫訳	新書間 (絶版となっているが、ことばの教室など所持している人を探し、内容を理解すること)
その他の資料				

【評価方法】	【履修上の留意点】
①最終テスト ②授業中の質問や意見なども重視	特になし